

インターバンクの声（2015年7月6日）

ギリシャの欧州連合（EU）が求める緊縮策の是非を問う国民投票は、受け入れ賛成派がやや有利、或いは拮抗しているとの事前見通しが覆され、日本時間6日午前5時過ぎ現在、受け入れ拒否優勢の結果がほぼ固まりつつある。投票前までのギリシャ市民に対するテレビインタビューなどでは、緊縮策を受け入れてユーロ圏残留の道を進むべきだとの意見が勝っていた印象だったが、現実を得てしてこのように想定とは異なる驚きの結果になるものだと改めて思い知らされた。緊縮策の受け入れ拒否の結果となれば、ギリシャのユーロ圏からの離脱必至が事前の大方の見方だったが、実際には単純にそうした結論を導くほど簡単ではないだろう。ギリシャ国民にしても、もはやユーロ圏から離脱する選択肢が国民にとって夢が膨らむはずと判断に立ったのだと思われるが、緊縮策を受け入れる生活よりもより困難な道が待っているのか否かは、まだ誰にも解らない。解っているのは、ギリシャと欧州中央銀行（ECB）やEUとのやり取りが複雑になりユーロ圏の混乱が今暫く続くことになりそうなことだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。